



たづがね (鵲が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子



2学期もありがとうございました

1年間で最も長い学期である2学期が明日で無事に終了できそうです。2学期は【学習・生活の活性化】を中心に子どもは教職員、保護者、地域、関係機関の協働によって充実した学校生活を過ごすことができたと感じています。学習では授業で「みんなでつなぐ授業づくり」をキーワードに、自分の考えをもち、それぞれの考えをつないでいくことでみんながわかる授業を目指しました。そして行事では、運動会で地域の方々とのつながりを意識した種目を実施したり、タスキをつなぎ走り切るリレーを行ったりしました。また、専門家やスペシャリストなど本物体験の教育として、県立美術館所蔵の本物の絵画等の作品を目で見たり、陸上や野球の専門選手を招いての実技指導を受けたりしました。学校だけでなく家庭や地域も学びの場となっています。日々の1つ1つが子どもの良い学び・良い成長の一助になったことと考えています。私たち教職員は、このような日々の子どもの成長を感じながら子どもからエネルギーや喜びをもらい粒々辛苦してきました。

新年を迎えるまで数日あります。今年1年の「できるようになったこと」や「分かるようになったこと」を自覚化しながら、また、課題についても振り返りながら、新たな年での目標を考えてみてください。みなさん良い年をお迎えください。そして、新しい2026年の良いスタートを切ってください。

いろんなものを見るとき目の目!?

みなさんはものや事象を見るとき、どのような目で見ていますか。「事実だけを見る」「因果関係を見る」「その後どうなっていくだろうかと自分なりの考えをもって見る」「興味のある事柄だけを見る」など見る目を考えると、様々な見る目があります。

私が以前大先輩から教えていただいたことがある「見る目」に【鳥の目、虫の目、魚の目】があります。これらは物事を見るときに使う目として視点を変えるいい目の使い方だと感じています。

まず「鳥の目」は、少し離れたところから俯瞰して見ることを言います。次に「虫の目」は、目の前の細かな一瞬一瞬を見ることです。最後に「魚の目」は時系列で見る、つまり過去から現在、そして未来（先）を見通しながら見ることです。

以前は「10年ひと昔」と言われる時代の進み方でしたが、現在は「3年ひと昔」とあっという間に時代の流れの方向が変わっていくことを実感する日々になっています。教育もまた同じで、10年で学習指導要領が改定されますが、先の30年50年を見据えて作成されています。しかし、予想通りにいかないことも多々あり、改定ごとに方向性が変わることはありますが、我々教員はこの学習指導要領に従って学習指導を進めています。しかしながら、その時々時代に求められることや子どもの現状が変化します。常に現状を把握しながら、現場で指導を実践しています。その際には先ほど述べた「鳥の目、虫の目、魚の目」を効果的に活用しながら実践していくことが要求されてきます。

教職員研修より

12月18日（木）にいじめ対応アドバイザーの竹内弘司先生を講師に招聘し教職員研修会を行いました。本校は今年度は重大事案のいじめ案件は発生していませんが、3学期以降の学校づくりに向けたお話をさせていただきました。今回の研修のキーワードは以下の5つです。

- ①「心の安全基地」を最後まで守り抜く
- ②「多様性」と「数」に慣れるシミュレーション
- ③「自己紹介」と「発信力」の武器を持たせる
- ④教師の「マインドセット」と「情報の引継ぎ」
- ⑤3学期のキーワード

☆松任谷由美
アカシア[acacia]
MUSIC VIDEO より



その中でも⑤では、『この学校で学んだことに自信（誇り）をもち、新しい学校での出会いを楽しみにする（期待）』を念頭に置きながら、「閉校の準備」＝「開校の助走」と位置づけ、今のメンバーでしかできない最高の成功体験の一つでも多く積み上げてほしいと締めくくっていただきました。小規模校の強み、地域の強みを生かして、3学期も児童とともに最後の西北台小学校の1ページを築いていきます。